

北九州市環境基本計画進捗評価報告

(平成 26 年度実績)

北九州市環境局
平成28年2月

目 次

I 北九州市環境基本計画の概要と評価の目的	1
II 評価作業手順	1
III 北九州市環境基本計画評価方法について	
1 評価対象事業の選定	2
2 評価軸の指針	3
3 採点方法	4
IV 評価報告	
1 総合評価	5
2 北九州市民環境力の持続的な発展	7
3 世界にひろげる低炭素社会づくりの推進	11
4 未来につなげる循環型社会づくりの推進	15
5 豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保	18
【参考】	
◆北九州市環境基本計画事務事業評価票	21

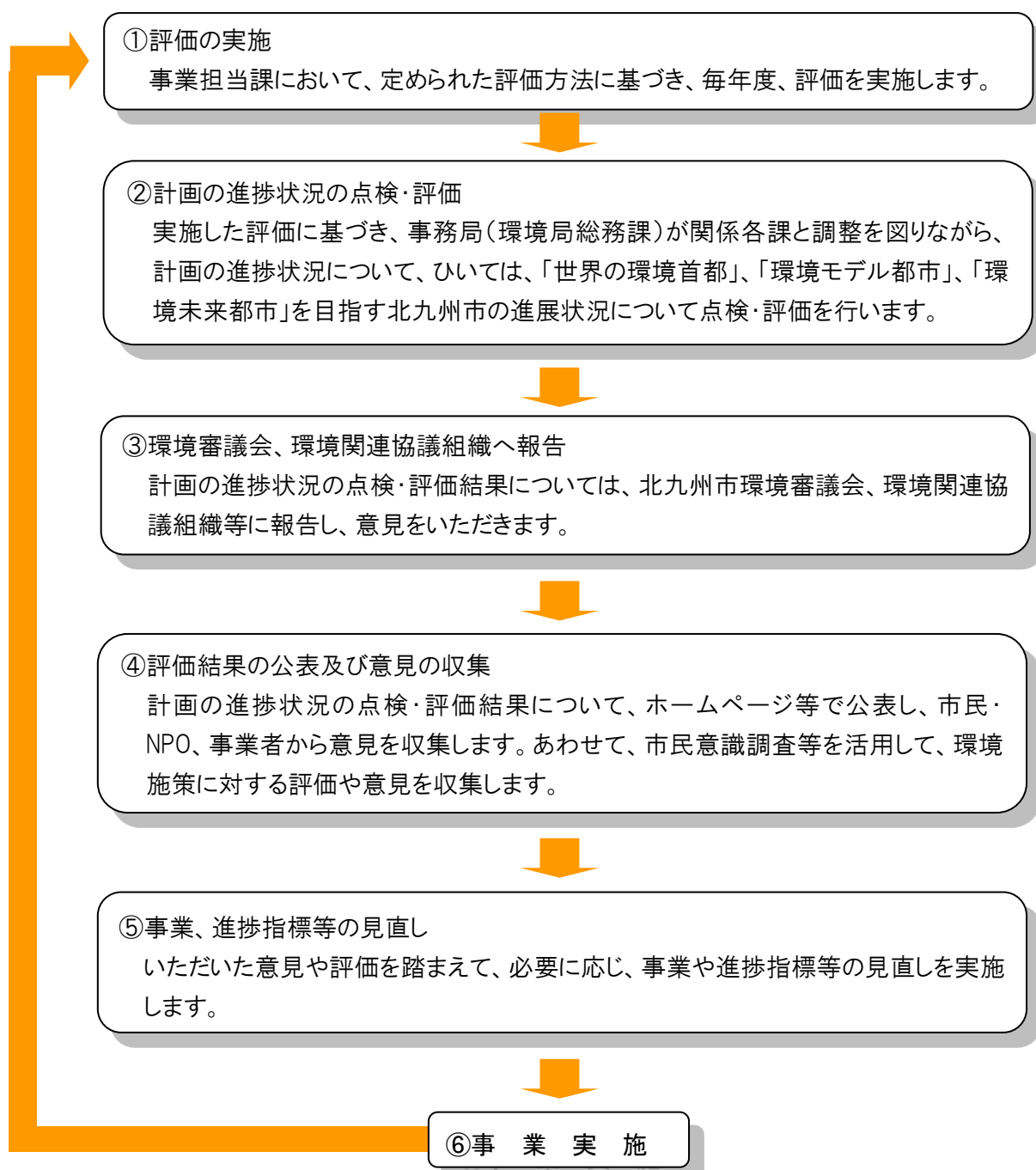
I 北九州市環境基本計画の概要と評価の目的

「北九州市環境基本計画」とは、北九州市環境基本条例に基づき、環境の保全に関する施策を総合的・計画的に推進するために策定した計画です。平成19年度に策定、平成24年度に改定し、「1 北九州市民環境力の持続的な発展」、「2 世界にひろげる低炭素社会づくりの推進」、「3 未来につなげる循環型社会づくりの推進」、「4 豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保」という4つの政策目標に基づき、幅広い視点で取組を進めています。

評価の目的は、「北九州市環境基本計画」の着実な推進を図るため、政策目標の達成に向けた取組や各主体の取組の状況等を自ら点検・把握・評価を行い、適正な見直しにつなげていくものです。これは、「計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)」のPDCAサイクルに沿って実施するものです。

II 評価作業手順

学識経験者等の意見を踏まえて決定した評価方法・手順により実施します。



Ⅲ 北九州市環境基本計画の評価方法について

1 評価対象事業の選定

当計画に掲げる4つの政策目標(「①北九州市民環境力の持続的な発展」、「②世界にひろげる低炭素社会づくりの推進」、「③未来につなげる循環型社会づくりの推進」、「④豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保」)を達成するために実施する「事務事業」について、進捗状況等を評価します。対象とする事務事業は以下のとおりとします。

(1) 戦略プロジェクト

当計画において先導的役割を持ち、本市独自の先進的な取組として掲げる「戦略プロジェクト」については、原則として評価の対象とします。

(2) 基本政策に関連する事業からの抽出

戦略プロジェクト以外の事業については、当計画の推進にあたっての主要事業や事業費が多い事業等を、4つの政策目標に沿って抽出し、評価を行います。

なお、できる限り多くの事業の評価を実施するため、年度毎にいくつかの事業を入れ替えながら評価を実施します。

【政策目標ごとの評価対象事業】

(1)北九州市民環境力の持続的な発展 ◆戦略プロジェクト関連事業 1 北九州市環境首都検定 2 ESD 推進事業 3 北九州エコライフステージ推進事業 4 北九州環境みらい学習システム推進事業 5 環境教育推進事業 6 牛乳パックサイクルによる環境教育モデル事業 7 子ども環境学習事業 8 まち美化等啓発事業 9 「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり 10 道路サポーター事業 11 循環型社会を形成するための環づくり支援事業 12 アジア低炭素化センター推進事業 13 中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業 14 「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業 15 響灘ピオトープ等運営事業【再掲】 16 次世代エネルギーパーク構想推進事業【再掲】 17 北九州エコタウンセンター管理運営事業 18 ふれあい花壇・菜園事業 19 鳥がさえずる緑の回廊創成事業【再掲】 20 市民植樹・美しいまちづくり推進事業環境 ◆基本政策項目関連事業 21 環境国際協力推進事業	36 CASBEE 北九州の普及 37 北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業 38 公用車における低公害車普及事業 39 電気自動車等導入助成事業 40 エコドライブ推進事業 41 ノーマイカー普及戦略事業 42 自転車共同利用支援事業 43 次世代エネルギーパーク構想推進事業 ◆基本政策項目関連事業 44 地域エネルギー政策推進事業
(2)世界にひろげる低炭素社会づくりの推進 ◆戦略プロジェクト関連事業 22 新成長戦略推進のための研究開発プロジェクト事業 23 水素エネルギー社会実証推進事業 24 市営住宅太陽光発電整備促進事業 25 水道施設への太陽光発電システムの導入 26 下水施設への太陽光発電システムの導入 27 下水道資源の有効利用(下水汚泥の燃料化) 28 新エネルギー等設備導入支援事業 29 中小企業省エネ設備導入促進事業 30 北九州スマートコミュニティ創造事業 31 城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業 32 道路照明、公園照明のLED 化事業 33 LED 防犯灯整備促進事業(防犯灯関連事業) 34 LED 防犯灯整備促進事業(地域総括補助金) 35 住まい向上リフォーム等促進事業	(3)未来につなげる循環型社会づくりの推進 ◆戦略プロジェクト関連事業 45 環境産業ネットワーク推進事業 46 北九州エコタウン事業 47 レアメタルリユースリサイクル拠点形成事業 48 環境未来技術開発助成事業 49 北九州エコプレミアム産業創造事業 50 エコアクション21認証・登録支援事業 51 建設リサイクルの推進 52 地産地消・学校給食推進事業 ◆基本政策項目関連事業 53 古紙リサイクル推進事業 54 3R 活動推進事業
	(4)豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保 ◆戦略プロジェクト関連事業 55 自然・生き物情報整備事業 56 市民と自然のふれあい推進事業(自然ネット) 57 鳥がさえずる緑の回廊創成事業 58 響灘ピオトープ運営等事業 59 北九州スマートコミュニティ創造事業(グリーングリッド) 60 八幡東田グリーングリッド推進事業 61 市民と自然のふれあい推進事業(エコツアー) 62 中谷地区「まちづくり構想」の推進 63 長野緑地を利用した農業体験教室 64 荒廃森林再生事業 ◆基本政策項目関連事業 65 環境対策事業 66 工場・事業場監視事業

※ 23、27、36、51については事業の中間段階であり、一部評価を行っていません。

2 評価軸の指針

事業担当課は以下の指針を基に、事務事業評価票(評価シート)を記載し、評価を行います。

※P21の「北九州市環境基本計画事務事業評価票」を参照

(1) 達成度

目標に対する実績(アウトプット)と、その目標達成によって提供された結果、最終的に得られる成果(アウトカム)について把握可能な場合は評価します。

達成度	アウトプット指標	定量的な目標	目標値に対する実績
		定性的な目標	目標に対する現状
	アウトカム指標	※客観的な数値が把握できる場合 (例)市民意識調査、CO ₂ 削減量、ごみ削減量	

(2) 波及効果

事業実施による社会的効果・影響(面的波及効果)、発展性(時間的波及効果)について評価します。

波及効果	社会的効果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会・市民・企業などに環境問題解決へ向けた良い効果や影響を与えたか。 ・環境改善にどのような好影響を与えたか。
	発展性	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な発展性が認められるか。 ・事業継続の妥当性があるのか。

※当評価軸には、事業の「妥当性」「必要性」の意味づけも含まれます。

(3) 効率性

事業の効果に対して適正な規模の経費であるかどうかを、当該事業の環境政策(政策目標)全体に占める割合等を示し、「達成度」「波及効果」との関係性から提示します。また、コスト縮減などの仕組みがあるかを評価します。

効率性	事業の効果に対して適正な規模の経費であるか。
	受益者負担などコスト縮減の仕組みがあるか。また、事業を実施することで収益の創出や行政コストの削減が実現したか。

(4) コメント欄

事業の概要のほか、特記事項や市民からの要望・期待が特に大きいもの、付随・派生した効果など、上記3つの指標では示せないものを記述します。

3 採点方法

(1) 事業毎の評価

事業毎に、3つの評価項目(達成度、波及効果、効率性)について、4段階で評価します。採点基準は以下の表のとおりとします。

【採点基準】

項目	A	B	C	D
達成度	目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
波及効果	環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
効率性	効率性(事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど)が高い。	効率性(同左)は適当であると認められる。	改善の余地がある。	抜本的な見直しが必要である。

(2) 配点方法

達成度は4点満点、波及効果、効率性は3点満点で採点します。達成度については、目標値を設定していない場合は3点満点とします。

【達成度】(4点満点) A→4点、B→3点、C→2点、D→1点

【波及効果・効率性】(3点満点) A→3点、B→2.25点、C→1.5点、D→0.75点

(3) 事業の総合評価

3つの評価項目に沿って点数化された結果を基に、総合評価します。

A: 積極的推進: 8.25点以上

B: 一部見直し: 6点以上～8.25点未満

C: 抜本的見直し: 4点以上～6点未満

D: 廃止及び休止: 4点未満

IV 評価報告

1 総合評価

(1) 評価対象事業数

「Ⅲの1 評価対象事業の選定(P2)」に沿って、評価の対象とした事業は次のとおりです。

【評価対象及び評価実施事業数】

項目 年度	北九州市民環 境力の持続的 な発展	世界にひろげる 低炭素社会づく りの推進	未来につなげる 循環型社会づく り推進	豊かさを支える生物多 様性保全の推進と快 適な生活環境の確保	合計
26	21	20	9	12	62

※総合評価を実施した事業数(再掲事業を含む)。計画段階または中間段階で総合評価が実施できない事業を除きます。

※《参考》H25年度の事業数は、順に24、20、11、13の計68事業

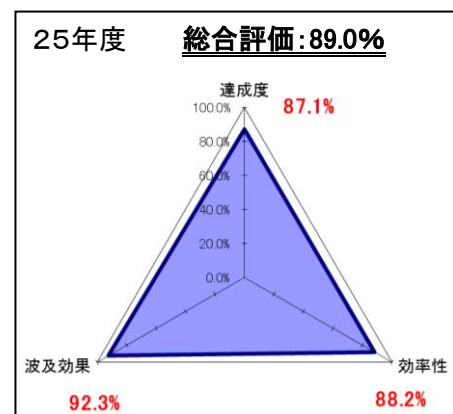
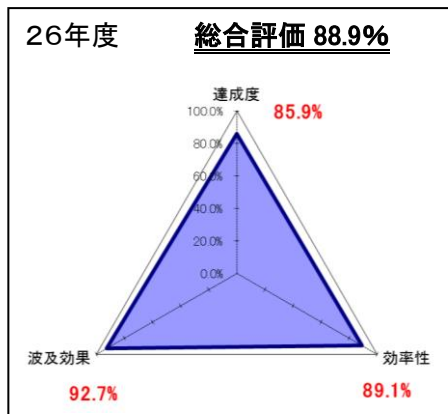
(2) 総合評価の状況

(数値は事業数)

項目 政策目標	事業数	A:積極的推進	B:一部見直し	C:抜本的見直し	D:廃止・休止
市民環境力の発展	21	17 (81.0%)	4 (19.0%)	0	0
低炭素社会づくり	20	14 (70.0%)	6 (30.0%)	0	0
循環型社会づくり	9	9 (100%)	0	0	0
生物多様性保全	12	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0	0
合計	62	50 (80.6%)	12 (19.4%)	0	0

※《参考》H25年度の評価状況は、A:56事業(82.4%)、B:12事業(17.6%)、C、D:0事業(0%)

(3) 評価項目・政策目標に対する評価



評価項目 政策目標	達成度	波及効果	効率性	総合評価
市民環境力の発展	85.7%(84.4%)	92.9%(92.7%)	88.1%(85.4%)	88.6%(87.2%)
低炭素社会づくり	86.3%(91.3%)	88.8%(90.0%)	87.5%(88.8%)	87.4%(90.1%)
循環型社会づくり	86.1%(88.6%)	100.0%(93.2%)	100.0%(97.7%)	94.4%(92.7%)
生物多様性保全	85.4%(84.6%)	93.8%(94.2%)	85.4%(84.6%)	87.9%(87.5%)
合計	85.9%(87.1%)	92.7%(92.3%)	89.1%(88.2%)	88.9%(89.0%)

※()内は、前年度(H25年度)の数値です。

(4) 総合評価の概要

- 「総合評価の状況」をみると、評価を実施した62事業については、「A:積極的推進」と「B:一部見直し」のみで、「C:抜本的見直し」、「D:廃止・休止」の事業はありませんでした。また、「A」評価が全体の8割を超えており、環境施策全般として順調に推進できたものと考えています。
- 評価項目別では、「波及効果」の評価が92.7%と最も高く、全ての政策目標で、前年度に引き続き高い水準を保っています。戦略プロジェクト等の取組を通じて、市民や NPO、企業、大学などの積極的な環境活動の広がりにつながってきているといえます。また、「達成度」と「効率性」についても、若干の増減はあるものの、前年度から同水準を保っています。(達成度:87.1%→85.9%、効率性:88.2%→89.1%)
- 政策目標別では、「市民環境力の発展」は、総合評価をはじめ、達成度、波及効果、効率性の全ての項目が、前年度より改善しました。これは、エコライフステージや、環境首都検定、まち美化啓発事業など、官民一体となって様々な環境への取組を行っていることが、評価の改善につながったものと考えます。
- 「低炭素社会づくり」は、総合評価は前年度より若干減少したものの、達成度、波及効果、効率性の3項目とも 85%を超え、前年度に続き高い水準を保っています。これは、環境モデル都市として他都市に先駆けて低炭素社会づくりに取り組んでいることや、環境モデル都市の国のフォローアップ結果において、13のモデル都市の中で5年連続で最高評価を受けているなど、国の評価にも表れています。
- 「循環型社会づくり」は、前年度に引き続き非常に高い評価となっており、平成 21 年度から増加傾向にあります。これは、エコタウンなどの環境産業拠点の形成をはじめ、市民とともに取り組むごみの減量化・資源化など、循環型社会の構築を目指して着実に取り組んでいることが要因です。また、直近の市政評価において、「ごみの適正処理とリサイクル」が1位から2位に下がったものの、引き続き高く評価されており、市民の評価にも表れています。
- また、「生物多様性保全と快適な環境生活の確保」については、総合評価は前年とほぼ同じで、概ね高く評価されています。直近の市政評価では、「大気・騒音・水質などの環境保全」が前回の12位から9位に上がっているものの、PM2.5などによる大気汚染をはじめ、環境保全に対する市民の不安は依然高いと考えられるため、今後も引き続き環境保全に対する着実な取り組みが必要であると考えます。

2 「北九州市民環境力の持続的な発展」に係る取組状況

(1) 評価対象事業

以下の21事業(再掲分を含む)を評価対象としています。

ア:戦略プロジェクト関連事業	
①北九州市環境首都検定 ②ESD 推進事業 ③北九州エコライフステージ推進事業 ④北九州環境みらい学習システム推進事業 ⑤こどもへの環境教育・環境体験の推進 a 環境教育推進事業 b 牛乳パックリサイクルによる環境教育モデル事業 c 子ども環境学習事業 ⑥市民による美しいまちづくりの推進 a まち美化等啓発事業 b 「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり c 道路サポーター事業 ⑦循環型社会を形成するための環づくり支援事業	⑧アジア低炭素化センター推進事業 a アジア低炭素化センター推進事業 b 中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業 c 「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業 ⑨響灘エコフロンティアパークの充実 a 響灘ビオトープ等運営事業【再掲】 b 次世代エネルギーパーク構想推進事業【再掲】 c 北九州エコタウンセンター管理運営事業 ⑩まちの森プロジェクト～環境首都 100 万本植樹～ a ふれあい花壇・菜園事業 b 鳥がさえずる緑の回廊創成事業【再掲】 c 市民植樹・美しいまちづくり推進事業
イ:基本政策項目関連事業	
①環境国際協力推進事業	

(2) 評価の概要

①総合評価の状況

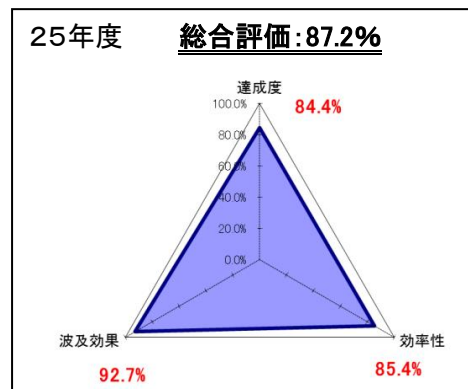
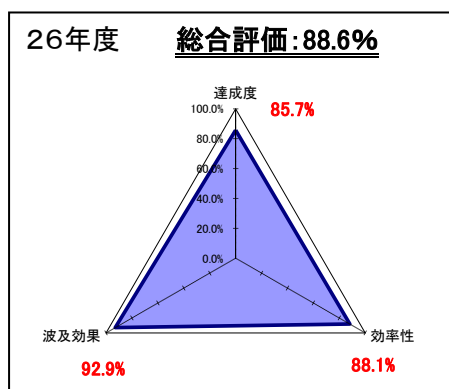
(数値は事業数)

総合評価 年度	A	B	C	D
26	17 (81.0%)	4 (19.0%)	0	0

※総合評価を実施した事業数(再掲事業を含む)。

※《参考》25年度の評価は、A:19事業、B:5事業、C:0事業、D:0事業

②政策目標に対する評価



③評価

- 「①総合評価の状況」によると、「A:積極的推進」と「B:一部見直し」のみで、「C:抜本的見直し」と「D:廃止・休止」に該当する事業はありませんでした。また、「A」が前年度と同じく全体の8割となっており、事業の進捗は概ね順調といえます。

- 「②政策目標に対する評価」によると、総合評価は約88.6%で、前年度の87.2%より改善しています。また、評価項目では、「達成度」、「波及効果」、「効率性」の3項目とも前年度より改善しています。これは、進捗指標の「エコライフステージの参加者数」が増加するなど、官民一体となった市民環境力の発展に向けた取組によるものだと考えます。

(3) 主な事業の概況

◆環境活動と地域コミュニティの好循環

環境保全のための人づくりと地域づくりを一体的に捉え、地域の取組を活かした環境活動を通じた地域コミュニティの形成を目指しています。

- 生ごみの減量化を図るため、「循環型社会を形成するための環づくり支援事業(ア-⑦)」では、「使い切り、食べ切り、水切り」の3切り運動の推進や生ごみコンポスト化についての講座等を開催しています。平成26年度は、リデュースクッキング講座(2回)や生ごみリサイクル講座(883人参加)を開催するなど、地域コミュニティの活性化や環境意識の醸成につながっています。

◆優れた環境人財の育成

北九州市の環境資源を活かした楽しい学びの仕組みである「北九州環境みらい学習システム」を中心に、環境教育・体験を充実させ、あらゆる世代の環境意識を高めています。また、ESDの活動が市内全域に広がり、専門的かつ実践的な知見を身につけた人財の育成を目指しています。

- 市民の環境学習に対する機会を増やし、環境に関心を持つ市民の裾野を広げるため、「北九州市環境首都検定(ア-①)」を実施しています。受検者数は年々増加しており、平成26年度は、過去最高の2,424人(平成25年度2,141人)となりました。また、本会場以外にも、市民センター等での受検をモデル的に実施するなど、環境人財育成に向けてさらなる取組の推進を図っています。

◆環境情報の共有と発信

多様な主体が、それぞれの役割と責任を明確にしながら協働し、活動が行えるネットワークの形成を図るとともに、環境情報を活用した環境活動への参加を推進しています。

- 市民環境力の強化と活動団体の交流を促進するため、「北九州エコライフステージ推進事業(ア-③)」を実施しています。各地域が主体となって実施する通年の取組とシンボルイベント事業「エコライフステージ」をあわせた参加者数は、過去最高の延べ約260.9万人(前年度:166.2万人)となるなど、各団体の活動内容の発信と相互のネットワークづくりに大きく寄与しています。また、これまでの13年間のエコライフステージの活動内容を横断的に検索できる「アーカイブシステム」を、環境ポータルサイト「北九州エコライフステージ」に導入し、これまで以上に国内外へ向けた幅広い情報発信に努めています。

◆国際的な協働・ビジネスの推進

公害克服の経験や海外とのネットワークを活用して、アジア低炭素化センターを中心に、アジア諸国の環境改善に貢献するとともに、市内事業者による環境技術の輸出を支援しています。

- ▶ 地元企業が有する環境先進技術の海外展開を支援する「アジア低炭素化センター推進事業（ア-⑧-a）」では、海外展開について企業との協議を実施するほか、海外での商談会等を通じたビジネスマッチングを実施しており、平成26年度の企業協議・マッチング数は500件となりました。また、低炭素化技術の輸出を目指す市内事業者が現地での実証実験や実現可能性調査（F/S）に要する費用の一部を助成する「中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業（ア-⑧-b）」では、平成26年度は5件の事業を採択しました。さらに、「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業（ア-⑧-c）」では、ベトナムのハイフォン市と共同で「ハイフォン市グリーン成長推進計画」を策定するなど、国際的な協働、ビジネスの推進を図っています。

(4) 各事業の評価状況

事務事業名	項目	達成度	波及効果	効率性	総合評価
①北九州市環境首都検定		C	A	A	B
②ESD 推進事業		C	B	B	B
③北九州エコライフステージ推進事業		A	A	B	A
④北九州環境みらい学習システム推進事業		B	B	B	B
⑤環境教育推進事業		B	A	A	A
⑥牛乳パックリサイクルによる環境教育モデル事業		A	B	B	A
⑦子ども環境学習事業		C	B	B	B
⑧まち美化等啓発事業		A	B	A	A
⑨「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり		B	A	B	A
⑩道路サポーター事業		B	A	B	A
⑪循環型社会を形成するための環づくり支援事業		A	A	B	A
⑫アジア低炭素化センター推進事業		A	A	A	A
⑬中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業		A	A	A	A
⑭「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業		A	A	A	A
⑮響灘ビオトープ等運営事業【再掲】		A	A	B	A
⑯次世代エネルギーパーク構想推進事業【再掲】		A	A	A	A
⑰北九州エコタウンセンター管理運営事業		B	A	A	A
⑱ふれあい花壇・菜園事業		B	A	B	A
⑲鳥がさえずる緑の回廊創成事業【再掲】		A	A	A	A

⑳市民植樹・美しいまちづくり推進事業	A	B	A	A
㉑環境国際協力推進事業	A	A	A	A

【進捗指標】

指標項目	目標値	H26 度実績	前年度実績 (H25 年度)
植樹本数(市内計)(再掲)	累計100万本(H35) 6万7千本/年	累計約62.5万本 約12万8千本/年	累計約49万本 約7万9千本/
樹木苗(どんぐりのなる木)の植栽(再掲)	累計30万本(H31) 20,000本/年	累計約38万本 114,500本/年	累計約26万本 36,585本/年累
エコツアー参加者	5,000人/年 《H28年度》	6,689人/年	6,444人/年
環境首都検定受検者	5,500人/年 《H28年度》	2,424人/年	2,141人/年
エコライフステージの参加者数	74万人以上/年 《H28年度》	260.9万人/年	166.2万人/年
環境学習サポーター登録数	132人 《H28年度》	61人	65人
環境学習体験実施数(小中学校)	140校/年 《H28年度》	132校/年	132校/年
子ども環境サミット参加校	5校/年 《H28年度》	2校/年	2校/年
古紙回収に取り組むまちづくり協議会数(再掲)	全まちづくり協議 会(136団体)	累計132団体	累計130団体
まち美化推進員数	累計200人 《H28年度》	累計156人	累計140人
まち美化活動の参加者数	15万人/年 《H28年度》	13万5千人/年	12万4千人/年
環境国際研修員の受入数	累計2,200人 《H24-28年度》	累計3,102人 1,209人/年	累計1,893人 993人/年
戦略的環境国際協力事業の件数	6件/年 《H28年度》	6件/年	5件/年
海外展開についての企業協議、ビジネスマッチング数	430件以上/年	500件/年	443件/年

3 「世界にひろげる低炭素社会づくりの推進」に係る取組状況

(1) 評価対象事業

以下の23事業を評価対象としています。

ウ：戦略プロジェクト関連事業	
①次世代エネルギーの技術開発と導入・普及の推進 a 新成長戦略推進のための研究開発プロジェクト事業 b 水素エネルギー社会実証推進事業 c 市営住宅太陽光発電整備促進事業 d 水道施設への太陽光発電システムの導入 e 下水施設への太陽光発電システムの導入 f 下水道資源の有効利用(下水汚泥の燃料化) g 新エネルギー等設備導入支援事業 ②中小企業省エネ設備導入促進事業 ③北九州スマートコミュニティ創造事業 ④城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業 ⑤街なかへのLED照明の導入 a 道路照明、公園照明のLED化事業 b LED防犯灯整備促進事業(防犯灯関連事業) c LED防犯灯整備促進事業(地域総括補助金)	⑥環境に配慮した建築物の普及促進 a 住まい向上リフォーム促進事業 b CASBEE 北九州の普及 ⑦北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業 ⑧次世代自動車の導入・普及の推進 a 公用車における低公害車普及事業 b 電気自動車等導入助成事業 c エコドライブ推進事業 d ノーマイカー普及戦略事業 ⑨自転車共同利用支援事業 ⑩次世代エネルギーパーク構想推進事業
エ：基本政策項目関連事業	
①地域エネルギー政策推進事業	

※水素エネルギー社会実証推進事業(ウ-①-b)、下水道資源の有効利用(ウ-①-f)、CASBEE 北九州の普及(ウ-⑥-b)については、事業の中間段階であり達成度評価及び総合評価を行っていません。

(2) 評価の概要

①総合評価の状況

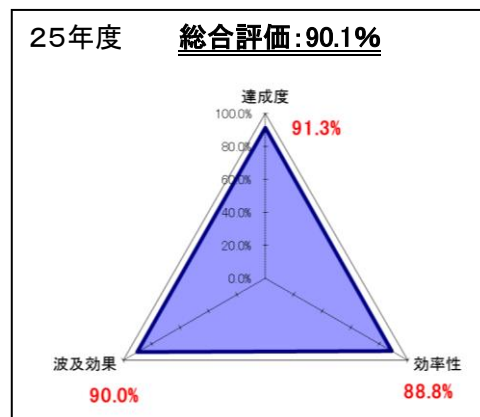
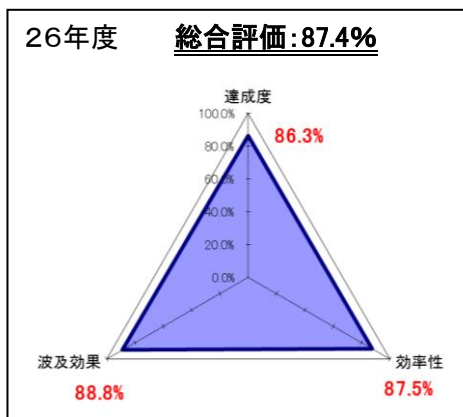
(数値は事業数)

総合評価 年度	A	B	C	D
26	14 (70.0%)	6 (30.0%)	0	0

※総合評価を実施した事業数。計画段階または中間段階で総合評価が実施できない事業を除く。

※《参考》H25年度の評価は、A:16事業、B:4事業、C:0事業、D:0事業

②政策目標に対する評価



③評価

- 「①総合評価の状況」によると、「A:積極的推進」と「B:一部見直し」のみで、「C:抜本的見直し」と「D:廃止・休止」に該当する事業はありませんでした。また、「A」が前年度に引き続き全体の7割となっており、事業の進捗は概ね順調といえます。
- 「②政策目標に対する評価」によると、総合評価は87.4%と、前年度より若干減少したものの、達成度、波及効果、効率性の3項目とも85%を超え、前年度に続き高い水準を保っています。今後も引き続き、北九州市環境モデル都市行動計画をもとに、低炭素社会に向けたさらなる取組を推進していきます。

(3) 主な事業の概況

◆低炭素社会を支えるストック型社会への転換

本市の特性を活かし、長寿命でエネルギー利用の少ないコンパクトな都市を目指すとともに、住宅の省CO₂促進や交通システムの転換、低公害車の普及等を進めています。

- 企業内でのエコドライブ活動を支援するとともに、市民への普及啓発を図る「エコドライブ推進事業(ウ-⑧-c)」では、平成26年度は63社の参加があり、約505tのCO₂削減につながっています。さらに、毎週水曜日を「ノーマイカーデー」とし公共交通機関の利用を促進する「ノーマイカー普及戦略事業(ウ-⑧-d)」では、79社の参加があり、CO₂削減量も約200tに達するなど大きな成果につながっています。

◆低炭素化に貢献する産業クラスターの構築

本市が培ってきたものづくりのまちとしての技術やノウハウを活用し、低炭素社会が求める技術開発、製品製造、サービス提供を促進しています。また、新エネや省エネの導入に率先して取り組むとともに、工場の持つエネルギーを様々な用途に活用しています。

- 「中小企業省エネ設備導入促進事業(ウ-②)」では、省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備を設置する市内の中小企業等に対し、導入経費の一部補助を行っています。H26年度は、110件の申請に対し97件の支援を行い、事業者の省エネへの取組意識の向上とともに、大きな省エネ効果につながっています。

◆次世代エネルギー拠点の総合的な形成

安定的なエネルギー基盤の確保と温室効果ガスの削減を図るため、再生可能エネルギーなど多様なエネルギー源の導入と利活用技術の開発を進めています。また、市民参加のもと、地域でエネルギーを賢く使いこなすエネルギーシステムの構築に取り組んでいます。

- 八幡東区東田地区において、次世代電力網「スマートグリッド」を核として、ライフスタイルやビジネススタイル、交通システムなどの街を構成する様々な要素を低炭素型に変革する「北九州スマートコミュニティ創造事業(ウ-③)」に取り組みました。平成22年度からの5年間の取組の結果、需要家のエネルギーマネジメント等により、平成17年度の市内標準街区と比較して東田地区のCO₂排出量を約50%削減しました。また、電力の需給状況に応じて電気料金を一時的に変動させるダイナミックプライシングの他、商業施設のクーポン等を発行し楽しみながら節電に

取り組めるインセンティブプログラムを行い、両実証ともに約20%のピーク時電力削減効果が確認できました。

本事業は、平成26年5月、世界の優れたスマートグリッドプロジェクトを表彰する ISGAN AWARD 2014 において、アジアで唯一入賞し、世界的な評価を受けました。

(4) 各事業の評価状況

事務事業名	項目	達成度	波及効果	効率性	総合評価
①新成長戦略推進のための研究開発プロジェクト事業		B	A	B	A
②水素エネルギー社会実証推進事業		—	A	A	—
③市営住宅太陽光発電整備促進事業		C	B	B	B
④水道施設への太陽光発電システムの導入		B	B	B	B
⑤下水施設への太陽光発電システムの導入		C	B	A	B
⑥下水道資源の有効利用(下水汚泥の燃料化)		—	A	A	—
⑦新エネルギー等設備導入支援事業		A	A	A	A
⑧中小企業省エネ設備導入促進事業		B	A	A	A
⑨北九州スマートコミュニティ創造事業		B	A	A	A
⑩城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業		B	B	B	B
⑪道路照明、公園照明のLED 化事業		A	B	B	A
⑫LED 防犯灯整備促進事業(防犯灯関連事業)		A	B	B	A
⑬LED 防犯灯整備促進事業(地域総括補助金)		A	A	B	A
⑭住まい向上リフォーム等促進事業		A	B	B	A
⑮CASBEE 北九州の普及		—	A	A	—
⑯北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業		A	A	A	A
⑰公用車における低公害車普及事業		A	A	A	A
⑱電気自動車等導入助成事業		A	A	A	A
⑲エコドライブ推進事業		A	A	A	A
⑳ノーマイカー普及戦略事業		B	B	B	B
㉑自転車共同利用支援事業		B	B	B	B
㉒次世代エネルギーパーク構想推進事業		A	A	A	A

㊦地域エネルギー政策推進事業	A	A	A	A
----------------	---	---	---	---

【進捗指標】

指標項目	目標値	H26 度実績	前年度実績 (H25 年度)
公共施設省エネ創エネ事業における太陽光発電設備導入量	累計 3,500kW 《H28 年度》	累計 4,670 kW	累計 3,044kW
住宅用太陽光発電システム導入支援事業におけるシステム導入量	累計 119,000kW 《H28 年度》	累計 50,791kW	累計 44,601kW
工場屋根や公共空間への大規模太陽光発電システムの導入量	累計 50,000kW 《H28 年度》	累計 135,480kW	累計 61,970kW
道路照明灯の LED 化率	100% 《H37 年度》	70%	60%
公園照明灯の LED 化数	累計 242 灯 《H28 年度》	累計 287 灯 73 灯/年	累計 214 灯 79 灯/年
中小企業省エネ設備導入促進事業における補助件数	100 件/年 《H26 年度》	97 件/年	102 件/年
環境産業融資における融資件数	10 件/年 《H26 年度》	0 件/年	5 件/年
低炭素化技術に関する重点研究プロジェクト実施件数	累計 10 件 《H27 年度》	累計 15 件 3 件/年	累計 12 件 5 件/年
建物への環境性能評価システム(CASBEE)の計画届出件数	15 件/年	13 件/年	21 件/年
低床式バスの導入、低床車両の導入	累計 45 台、3編成 《H24-28 年度》	累計 21 台、1編成、6 台/年、1 編成/年	累計 15 台、10 台/年、1
モーダルシフト推進による年間CO ₂ 削減量	累計 24,150t 《H24-28 年度》	事業終了	累計 11,300t 7,100t/年
国際 RORO 航路による年間CO ₂ 削減量	6,200t/年 《H28 年度》	航路なし	航路なし
次世代自動車の普及台数	累計 6,000 台 《H28 年度》	累計 918 台	累計 730 台
次世代自動車の普及によるCO ₂ 削減量	累計 11,100t 《H28 年度》	累計 3,000t	累計 1,350t
エコドラ北九州プロジェクトによるCO ₂ 削減量	累計 7,000t 《H24-28 年度》	累計 961t 505 t/年	累計 456t 240t/年
エコプレミアム選定件数【再掲】	累計 200 件 《H27 年度》	累計 190 件	累計 181 件

【参考】北九州市の温室効果ガス排出量(千トンCO₂)

区分	2005年度 (平成17)	2010年度 (平成22)	2011年度 (平成23)	2012年度 (平成24) [構成%]	対2005年度比	
二酸化炭素	家庭(暮らし)	1,039	906	1,062	1,174 [6.0]	13.0%
	業務	1,186	1,364	1,690	1,868 [9.6]	57.5%
	運輸	1,751	1,651	1,673	1,699 [8.8]	-2.9%
	産業	10,717	11,665	12,257	12,686 [65.4]	18.4%
	エネルギー転換	246	336	379	375 [1.9]	52.4%
	工業プロセス	695	1,019	1,097	1,031 [5.3]	48.2%
	廃棄物	542	364	389	357 [1.8]	-34.1%
その他ガス(メタンなど)	172	179	208	219 [1.1]	27.3%	
温室効果ガス合計	16,348	17,484	18,754	19,409 [100]	18.7%	

4 「未来につなげる循環型社会づくりの推進」に係る取組状況

(1) 評価対象事業

以下の10事業を評価対象としています。

オ: 戦略プロジェクト関連事業	
①環境産業ネットワークの構築 a 環境産業ネットワーク推進事業 b 北九州エコタウン事業	③北九州エコプレミアム産業創造事業及び エコアクション21認証登録支援事業 a 北九州エコプレミアム産業創造事業 b エコアクション21認証・登録支援事業
②エコタウンの高度化(資源リサイクル拠点の形成) a レアメタルリユースリサイクル拠点形成事業 b 環境未来技術開発助成事業	④建設リサイクルの推進 ⑤地産地消・学校給食推進事業
カ: 基本政策項目関連事業	
①古紙リサイクル推進事業	②3R 活動推進事業

※建設リサイクルの推進(オ-④)については、事業の中間段階であり効率性評価及び総合評価を行っていません。

(2) 事務事業の進捗状況

① 総合評価の状況

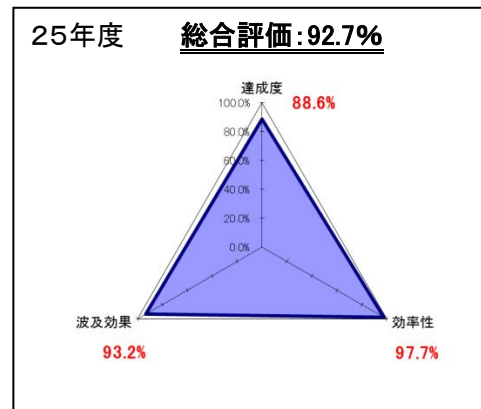
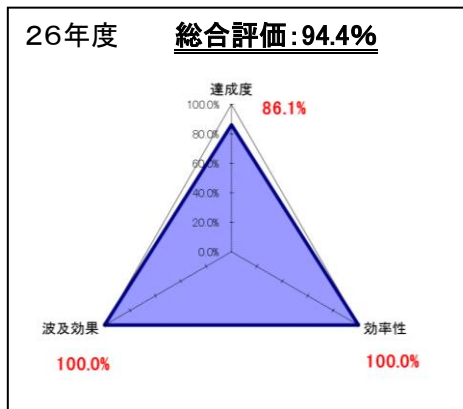
(数値は事業数)

総合評価 年度	A	B	C	D
26	9 (100%)	0	0	0

※総合評価を実施した事業数。計画段階または中間段階で総合評価が実施できない事業を除く。

※《参考》平成25年度の評価は、A:10事業、B:1事業、C:0事業、D:0事業

② 政策目標に対する評価



③ 評価

- 「①総合評価の状況」によると、「A:積極的推進」のみで、「B:一部見直し」、「C:抜本的見直し」、「D:廃止・休止」に該当する事業はありませんでした。また、「A」が4年連続で90%を越えており、事業の進捗は順調といえます。
- 「②政策目標に対する評価」によると、総合評価は94.4%と非常に高い評価となっており、平成21年度から増加傾向にあります。これは、直近の「ごみの適正処理とリサイクル」の市政評価で1位から2位に順位が下がったものの、引き続き高く評価されているように、循環型社会への着実

な取組によるものと考えます。

(3) 主な事業の概況

◆最適な「地域循環圏」の構築

資源循環の性質に応じた規模の循環圏の形成に向け、ものづくりのまちとしての地域特性を活かした「最適な『地域循環圏』の構築」を進めています。

- 「古紙リサイクル推進事業(カ-①)」では、一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動支援を行っています。平成26年度、古紙回収に取り組むまちづくり協議会は、132団体(前年度130団体)と着実に増えており、市内の約97%のまちづくり協議会において古紙回収活動が実施され、家庭ごみの減量化に大きく貢献しています。

◆環境産業拠点都市の形成

新たな環境産業の誘致と既存産業の環境化を推進し、資源循環型社会を支える産業拠点の形成を目指しています。

- 「北九州エコタウン事業(オ-①-b)」では、環境産業の集積化と環境・エネルギー技術開発の拠点化を図るため、国等関係機関との協議や企業支援などを行っています。平成26年度のエコタウン事業による投資額は目標(5億円)を大きく超える9億円となり、年間視察者数も10万人を越えました。これまでの投資額は704億円、平成26年度末の雇用者数1,004人の雇用を生み出しており、大きな成果につながっています。

(4) 各事業の評価状況

事務事業名 \ 項目	達成度	波及効果	効率性	総合評価
①環境産業ネットワーク推進事業	A	A	A	A
②北九州エコタウン事業	A	A	A	A
③レアメタルリユースリサイクル拠点形成事業	A	A	A	A
④環境未来技術開発助成事業	A	A	A	A
⑤北九州エコプレミアム産業創造事業	B	A	A	A
⑥エコアクション21認証・登録支援事業	B	A	A	A
⑦建設リサイクルの推進	A	A	—	—
⑧地産地消・学校給食推進事業	B	A	A	A
⑨古紙リサイクル推進事業	B	A	A	A

⑩3R 活動推進事業	B	A	A	A
------------	---	---	---	---

【進捗指標】

指標項目	目標値	H26 度実績	前年度実績 (H25 年度)
市民 1 人一日あたりの家庭ごみ量	470g 以下 《H32 年度》	495g	505g
一般廃棄物のリサイクル率	35%以上 《H32 年度》	26.3%	25.9%
プラスチック製容器包装の分別協力率	55% 《H32 年度》	47.8%	43.2%
古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	全まちづくり協議会(136 団体)	累計 132 団体	累計 130 団体
市民一人あたりの古紙回収量	55.2kg/年 《H32 年度》	45.1kg/年	42.5kg/年
カンパスシール事業参加店におけるレジ袋お断り率	27% 《H26 年度》	30.3%(併用ポイント脱退店を含む)	29.3%(併用ポイント脱退店を含む)
エコタウン事業による投資額	5 億円以上/年	9 億円/年	9 億円/年
エコタウンへの視察者数	100,000 人以上/年	100,332 人/年	100,643 人/年
使用済み小型電子機器等回収量	1,200t/年 《H28 年度》	1,410t/年	676t/年
環境未来技術開発助成事業における研究の事業化件数	累計 34 件 《H32 年度》	累計 30 件	累計 24 件
エコプレミアム選定件数	累計 200 件 《H27 年度》	累計 190 件	累計 181 件
市役所におけるグリーン購入の推進	99%以上を維持	99.24%	99.37%

【参考1】 市民一人1日当たりの家庭ごみ量の推移

	H15	H21	H22	H23	H24	H25	H26
家庭系ごみ量(t)	258,306	181,629	180,197	181,171	179,986	178,303	173,999
家庭ごみ(t)	253,216	178,514	177,154	177,982	176,841	174,942	170,744
粗大ごみ(t)	5,090	3,115	3,043	3,189	3,144	3,361	3,255
一人1日当たりの排出量(g/人・日)	705	506	505	509	507	505	495
平成15年度基準の増減率(%)		-28.2	-28.4	-27.8	-28.1	-28.4	-29.8

【参考2】 一般廃棄物のリサイクル率

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26
実績	30.4%	30.2%	28.3%	28.0%	25.9%	26.3%

5 「豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保」に係る取組状況

(1) 評価対象事業

以下の12事業を評価対象としています。

キ：戦略プロジェクト関連事業	
①自然・生き物情報整備事業 ②市民と自然のふれあい推進事業(自然ネット) ③響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業 a 鳥がさえずる緑の回廊創成事業 b 響灘ビオトープ運営等事業 ④八幡東田グリーングリッド推進事業 a 北九州スマートコミュニティ創造事業(グリーングリッド) b 八幡東田グリーングリッド推進事業	⑤里地里山の保全と持続的な利用 a 市民と自然のふれあい推進事業(エコツアー) b 中谷地区「まちづくり構想」の推進 c 長野緑地を利用した農業体験教室 d 荒廃森林再生事業
ク：基本政策項目関連事業	
①環境対策事業	②工場・事業場監視事業

(2) 事務事業の進捗状況

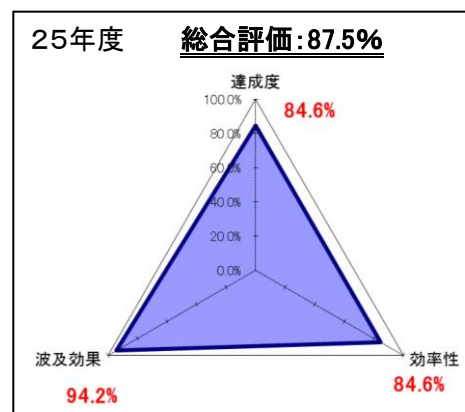
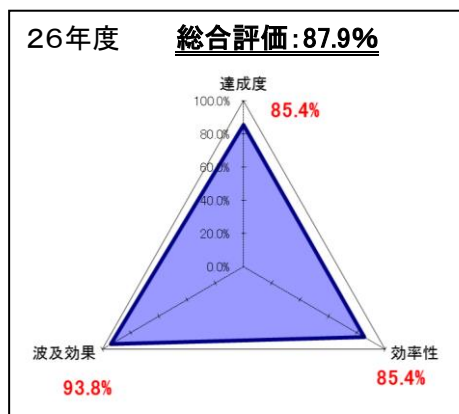
①総合評価の状況

(数値は事業数)

総合評価 年度	A	B	C	D
26	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0	0

※《参考》平成25年度の評価は、A:11事業、B:2事業、C:0事業、D:0事業

②政策目標に対する評価



③評価

- 「①総合評価の状況」によると、「A」評価と「B」評価のみで、「C:抜本的見直し」、「D:廃止・休止」の事業はありませんでした。また、「A」が83.3%と、前年度に引き続き80%を上回っており、事業の進捗は概ね順調といえます。
- 「②政策目標に対する評価」によると、総合評価は、前年度とほぼ同じで、概ね高く評価されています。直近の市政評価では、「大気・騒音・水質などの環境保全」が前回の12位から9位に

上がっているものの、PM2.5などによる大気汚染をはじめ、環境保全に対する市民の不安は依然高いと考えられるため、今後も引き続き環境保全に対する着実な取り組みが必要であると考えます。

(3) 主な事業の概況

◆生物多様性を大切にしまちづくり

都市の機能と自然の機能がともに発揮され、そこに暮らす人々の生活とあらゆる生物の生息や生育が共生できるまち「都市と自然とが共生するまち」を目指しています。

- 「響灘ビオトープ運営等事業(キ-③-b)」では、生物の楽園として保全しつつ、見て触れることができ、生態系の仕組みや生物多様性の重要性などを学ぶ場である響灘ビオトープの運営を行っています。平成26年度は、イベント(40回)やガイドツアー(6,437人参加)を開催し、オープンから2年半で約6万3千人が訪れるなど、自然環境教育の場として活用され、市民の自然環境に対する意識向上に貢献しています。

◆安心して暮らせる快適なまちづくり

公害関連法令の遵守を通じた公害防止の徹底を図り、市民が健康で安心して暮らせる快適なまちづくりを目指しています。

- 「環境対策事業(ク-①)」では、大気、水質などの監視測定を行い、環境の現況を把握するとともに、新たな施策の検討など環境保全の推進に役立てています。河川海域等の水質は71地点、大気、騒音、振動については80地点において環境モニタリングを実施し、市民の生活環境の保全に取り組んでいます。

(4) 各事業の評価状況

事務事業名	項目	達成度	波及効果	効率性	総合評価
①自然・生き物情報整備事業		A	A	A	A
②市民と自然のふれあい推進事業(自然ネット)		B	A	A	A
③鳥がさえずる緑の回廊創成事業		A	A	A	A
④響灘ビオトープ運営等事業		A	A	B	A
⑤北九州スマートコミュニティ創造事業(グリーングリッド)		B	A	B	A
⑥八幡東田グリーングリッド推進事業		C	B	B	B
⑦市民と自然のふれあい推進事業(エコツアー)		A	A	A	A
⑧中谷地区「まちづくり構想」の推進		A	A	B	A
⑨長野緑地を利用した農業体験教室		A	B	B	A

⑩ 荒廃森林再生事業	C	A	B	B
⑪ 環境対策事業	B	A	B	A
⑫ 工場・事業場監視事業	A	B	A	A

【進捗指標】

指標項目	目標値	H26 度実績	前年度実績 (H25 年度)
植樹本数(市内計)	累計 100 万本(H35) 6 万 7 千本/年	累計約 62.5 万本 約 12 万 8 千本/年	累計約 49 万本 約 7 万 9 千本/年
八幡東田地区の高木植樹本数	累計 300 本 《H23-32 年度》	累計 215 本 161 本/年	累計 54 本 54 本/年
自然環境保全支援事業における年間助成数	10 件以上/年	11 件/年	10 件/年
自然に関する市民活動団体数	40 団体 《H26 年度》	35 団体	35 団体
樹木苗(どんぐりのなる木)の植栽	累計 30 万本(H31) 20,000 本/年	累計約 38 万本 114,500 本/年	累計約 26 万本 36,585 本/年
市街地の緑の担保(市街化区域の緑の割合)	9.5% 《H32 年度》	8.2%	8.1%
次世代自動車の普及台数【再掲】	累計 6,000 台 《H28 年度》	累計 918 台	累計 730 台
次世代自動車の普及によるCO ₂ 削減量【再掲】	累計 11,100t 《H28 年度》	累計 3,000t	累計 1,350t
エコドラ北九州プロジェクトによるCO ₂ 削減量【再掲】	累計 7,000t 《H24-28 年度》	累計 961t 505 t/年	累計 456t 240t/年
まち美化推進員数【再掲】	累計 200 人 《H28 年度》	累計 156 人	累計 140 人
まち美化活動の参加者数【再掲】	15 万人/年 《H28 年度》	13 万 5 千人/年	12 万 4 千人/年

北九州市環境基本計画 事務事業評価票 【 年度】

基準日 平成 年 月 日現在

政策目標分類		所管局・課	局	課
		担当者		
戦略プロジェクト名		連絡先	TEL	—
事業名		事業期間	年度～	年度
事業概要				
評価時点	<input type="checkbox"/> 事前評価（事業未実施） <input type="checkbox"/> 中間段階の評価（実施途中のもの） <input type="checkbox"/> 事後評価（年度ごとに完結）			

【達成度】（※事前評価及び中間段階の評価の際は記載不要）

判定基準		目標値	現状値	
アウトプット指	定量的な目標			
	定性的な目標			
アウトカム指標				
担当課自己評価		点	調整欄	

【波及効果】

判断基準	評価		
社会的効果			
発展性			
担当課自己評価	点	調整欄	

【効率性】

判断基準	評価		
事業の効果に対して適正な規模の経費であるか。			
縮減の仕組みがあるか。（受益者負担など）事業を実施することで収益の創出や行政コストの削減が実現したか。			
担当課自己評価	点	調整欄	

コスト		H24年度決算	H25年度決算	H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算
財源内訳	事業費	千円	千円	千円	千円	千円
	一般財源	千円	千円	千円	千円	千円
	国庫支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円	千円	千円

コストに関する指標	年度	実績値	コストに関する指標	年度	実績値
事業費の対前年比	24	— %	一般財源比率	24	%
	25	%		25	%
	26	%		26	%
	27	%		27	%
	28	%		28	%

【コメント】

市民からの要望・期待が特に大きいもの、事業の実施により付随・派生した効果など、上記の指標では示せないものを記述。	
--	--

【総合評価】

担当局・室の評価、評価理由説明、今後の方向性					基本計画担当課の評価、評価理由説明、今後の方向性			
	達成度	波及効果	効率性	評価	達成度	波及効果	効率性	評価
点数								
A S D								

(総合評価)

- A: 積極的推進: 8.25点以上 B: 一部見直し: 6点以上～8.25点未満
 C: 抜本的見直し: 4点以上～6点未満 D: 廃止及び休止: 4点未満